

# 石川県立鹿島少年自然の家 中期経営目標

(実施期間 平成29年度～平成33年度)

平成29年3月 策定

## 1 施設の設置目的

本県の青少年教育施設の中核として、青少年の健全な育成を図ることを目的として設置されており、青少年のための各種の研修や団体の活動拠点となっています。

## 2 施設の果たすべき役割

少年自然の家は、青少年の教育施設として、思いやりや協調性などの社会性を育むとともに、自然に対する理解や畏敬の念を深め、豊かな感性やたくましく生きる力を育むため、集団宿泊活動や自然体験活動の機会を提供することを、その役割としています。

また、生涯学習振興の観点から、家庭、学校、地域などの教育・学習の場としての役割も担っています。

## 3 事業内容

### (1) 研修会、講習会等の実施

県主催事業の「いしかわ子ども自然学校」や指定管理者の独自事業等を通して、中能登地区の自然や風土を取り入れた多様な活動プログラムを実施しています。

### (2) 施設設備の提供及び指導と助言

学校や少年団体等に対し、宿泊研修や自然体験活動の活動提供を行うと共に、安心・安全に利用できるよう受入れ事業の環境整備に努めています。

## 4 現状と課題

### (1) 管理運営体制について

- ・当施設では、民間のノウハウを活用して、施設を効果的・効率的に管理・運営するため、指定管理者制度を平成20年度から導入しています。
- ・施設の利用促進、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務を指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である平成29年度から33年度までは、「一般財団法人 石川県県民ふれあい公社」を指定管理者として指定しています。
- ・教育施設としての機能を円滑に発揮するために、石川県教育委員会職員を駐在させ、専門的技術的事項について意見を述べるとともに、指定管理者の求めに応じて事業への協力を行っています。また、指定管理者は、施設長に退職校長等教員経験者を充てています。

- ・利用者の安全確保のため、定期的に安全衛生会議を開催するとともに、職員の資質向上を図るため、職員接遇研修を実施しています。
- ・県では、青少年教育施設運営会議を開催し、定期的に事業内容を確認するなど、指定管理者と共に、適正な管理・運営に努めています。

## (2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・少子化による児童生徒数の減少や施設の老朽化等により、利用促進を図る環境が厳しい中、平成27年度の利用者数は13,394人で、指定管理者制度導入前の平成19年度と比較して約11%増加しています。しかしながら、学校利用の少ない秋から冬は、施設の閑散期となっており、年間を通じた利活用促進に向けて、取り組みを強化していく必要があります。
- ・学校利用の促進に向けて、学校との連携を深め、教育的効果の期待できる活動プログラムの開発に努めていく必要があります。
- ・指定管理者の独自事業として、小学生や家族向けの自然体験事業を開催しています。今後も指定管理者が管理する他の施設や、近隣の教育施設及び社会教育団体等と連携した魅力あるプログラムの開発に努めていく必要があります。
- ・利用団体の拡大のために、特に中能登地区(七尾市、羽咋市、羽咋郡、鹿島郡)の学校や公民館等を訪問して施設PRに努めています。また、ホームページの内容を充実することで、施設の魅力を県民に広くPRしています。今後も適時適切な情報発信に努めていく必要があります。
- ・生涯学習の場として、より幅広い世代の利用につながるプログラムの開発を進める必要があります。

## (3) 施設運営の効率化について

- ・指定管理者の職員を施設の事務長に充て、適宜指導を行うなど人材面の効率化を図っています。
- ・多くの施設を運営している指定管理者のスケールメリットを活かし、物品の共同購入や消防設備等の管理・点検業務を指定管理者が管理する「のとじま臨海公園」と一括して業務委託をすることで、経費の削減に努めています。

## 5 中期経営目標

### (1) 中期経営目標（指定管理者が実現すべき目標）

- ①利用者数を5年間で4%増加させます。
- ②利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

### (2) 測定指標と目標値

測定指標		実績値	目標値(H33)
① 利用者数		13,697人 (H23~27 平均)	14,250人
② 利用者アンケートによる満足度	利用者サービス	100.0% (H27)	95%以上
	施設の維持・管理	97.2% (H27)	95%以上

## 6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

### (1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

#### ① 施設の利用促進に向けた取り組み

- ・施設周辺の自然を利用したオリエンテーリングや、クラフト活動等の新規プログラムの開発に努めます。
- ・りんご狩りやたけのこ採り、地引網体験など近隣の施設・団体と連携したプログラム、及び指定管理者が管理する他の施設と連携したプログラムなど、魅力ある活動プログラムを提供します。
- ・老人会や婦人団体を対象としたそば打ち体験などの出前講座を実施し、閑散期における平日の利用促進を図ります。
- ・中能登地区の小中学校を訪問して、学校行事や授業およびPTA、子供会での施設利用を働きかけます。また、中能登地区の公民館を訪問して、大人を対象とした活動プログラムのチラシを配付し、老人会・婦人団体・青年団などに施設利用を働きかけます。
- ・新聞や地域情報誌などへのイベント情報の掲載、魅力あるホームページの作成など、広報活動の充実を図ります。
- ・休館日の変更など、利用者のニーズに柔軟に対応します。

#### ② サービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・利用者が快適に過ごせるよう施設内外の清掃の徹底、利用者への笑顔と気持ちのよい応対、館内掲示の工夫に努めます。

- ・利用者のニーズや満足度を把握するため、アンケート調査や職員による聞き取り調査を行い、速やかに施設管理の改善につなげます。
- ・定期的に接遇などの職員研修を実施し、職員の資質向上に努めます。

## (2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・指定管理者が管理する施設（のとじま臨海公園等）と一括して委託契約を行うことにより、設備保守費用や燃料費などの経費削減を図ります。
- ・施設内の節電など職員の省エネ意識を高め、光熱費の削減を図ります。
- ・指定管理者の人的資源を有効に活用し、繁忙期や緊急時においても効率的な運営に努めます。

## 参考資料(施設の利用状況など)

### (1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

項目	H25	H26	H27
利用人数(延利用者)	13,197人	12,474人	13,394人
宿泊部屋稼働率	23.0%	21.1%	22.7%
活動部屋稼働率	42.2%	42.7%	42.9%

### (2)使用許可等の状況

項目	H25	H26	H27
主催事業	22団体	26団体	41団体
幼児団体	0団体	0団体	0団体
小学校団体	48団体	49団体	51団体
中学校団体	15団体	21団体	17団体
高校団体	4団体	5団体	2団体
大学団体	3団体	1団体	2団体
少年団体	57団体	61団体	59団体
大人団体	99団体	96団体	99団体
計	248団体	259団体	271団体

### (3)使用料の収入実績

項目	H25	H26	H27
食事料	9,908千円	9,218千円	10,038千円
宿泊料(寝具料)	799千円	741千円	816千円
その他(暖房・レンタル)	168千円	228千円	184千円
計	10,875千円	10,187千円	11,038千円